

センター通信

知床森林生態系保全センター

■はじめに

知床森林生態系保全センターでは、ヒグマ等の野生動物にとって重要な食物資源であるミズナラの豊凶をモニタリングすることを目的に、ミズナラ堅果（以下：どんぐり）の結実量調査を実施しています。

平成元年から調査を続け、今年で31回目の調査を迎えました。今年度は、調査開始以来2番目に最高の堅果数を記録し、豊作となりました。

■調査の流れ

9月に入ると、どんぐりが熟し始め、やがて落下します。それに合わせて、シートトラップを調査地の森へ持っていきます。



シートトラップを背負子で運ぶ

そして、約2ヶ月間、シートトラップに落下したどんぐりを1週間おきに回収します。その後、集計を行い、どんぐりの個数、重さ、大きさを計測します。



シートトラップに落下したどんぐり



落下したどんぐりを回収する

■結果

集計の結果、回収したどんぐりの総数は1万6438個となりました。不作だった昨年は2822個で、なんと約58

倍の差があります。いかに今年が豊作か実感できることでしょうか。ミズナラの豊凶の差がとても大きいことが分かります。その分、野生動物等にもたらす影響は大きいのではないのでしょうか。

■野生動物とどんぐりの関係

野生動物とどんぐりの関係を探るために調査地の森林に自動撮影カメラを仕掛けました。

その結果、知床に生息する多くの動物がどんぐりを食物資源として利用していることが確認できました。今回確認できたのは、ヒグマやエゾタヌキ、エゾリス、エゾクロテ、キタキツネ、エゾシカ、ネズミ類、鳥類です。



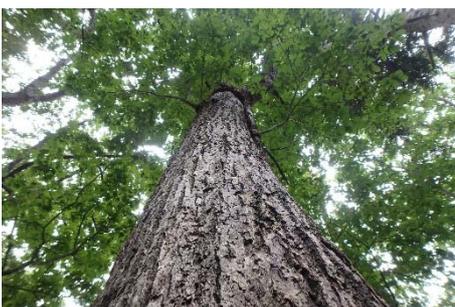
どんぐりに夢中な2頭のヒグマ

実際にヒグマのフンからもミズナラのどんぐりを食べていることが確認できています。ほかにはヤマブドウやクワの実などを食べているようです。

以上のことから、ミズナラをはじめとする広葉樹は野生動物にとって食物資源等をもたらす重要な生息環境となっていることが改めて分かりました。

■これから

引き続き、調査を行うことで、テータの蓄積を積み重ね、豊凶の予測やヒグマへの影響の把握に役立てていきます。



ミズナラの木